

進捗状況の概要 【1ページ以内】

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ASEAN各国トップ校との連携

ASEAN大学連合加盟校を中心とする各国トップ校(7か国17校)との連携を深化。

○ 質保証のためのコンソーシアム運営体制

平成25年8月、コンソーシアム大学代表者による総括会議をバンコク・アセアンセンターにて開催。同センターを活用した今後の学術・学生交流のありかた等について意見交換。



〈第1回 アセアンコンソーシアム大学会議〉

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



〈チュラロンコン大学との合同連携ワークショップをアセアンセンターで開催〉

○ 明治大学アセアンセンター開設

平成25年5月、バンコクの協定校・シーナカリンウィロート大学内に開設。439㎡の占有スペースに教室やゼミ室、テレビ会議システム等、最新の設備を備え、新たな海外教育拠点として運用を開始。

○ 各種学生派遣・受入れプログラムの実施

長期の協定留学(交換留学)に加え、複数の学部・研究科がアセアンセンターを活用した短期プログラムを実施。(政治経済学部、情報コミュニケーション学部、農学部、大学院理工学研究科等) またタイに加え、デ・ラ・サール大学やアテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学(ベトナム)・ラオス国立大学(ラオス)等のアセアンコンソーシアム大学と短期プログラム等を開発し、学生交流を実施している。



〈タイの高校生とのSEND活動〉

○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

学部の夏期短期プログラムと連携し、タイのシーナカリンウィロート大学付属高校でSEND活動を実施。短期プログラム参加学部生及び日本語教師を目指す国際日本学研究院生が現地校の授業に加わり、日本語や日本語文化紹介活動を実施。平成26年度はタイに加え、ベトナムのハノイ国家大学外国語大学でのSEND実施を予定している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ タイへの協定留学生(交換留学生)の大幅な増加

協定校の増加に伴い、平成25年度には9名の本学学生がタイの協定校へ長期留学を実施。授業履修の他にも、現地日系企業でのインターンシップや仏門への出家を経験するなど、「現場力」の醸成に資する異文化体験を経験した学生も。平成26年度は16名が留学見込み。

○ 外国人留学生の受入れプログラムの充実

平成26年5月、日本語教育センター主催の「日本語短期研修プログラム(ASEAN)」を3ヶ国5大学のコンソーシアム大学から、25人の留学生を受入れ実施。日本語授業に加え、日本文化体験等で構成されており、本学の日本人学生が参加留学生を全面サポート。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17人	139人	110人	135人	160人
学生の受入	10人	86人	105人	130人	155人

注)H24・H25は実績、H26以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ アセアンセンターへの常駐者配置及び危機管理の実施

同センターには日本人及びタイ人の常駐者を配置し、日本人派遣学生へは生活支援・学習サポートを、タイ人の留学希望者へは留学情報の提供などを行っている。また昨今の政情不安に鑑み、現地の最新情報を収集し、関係教職員や在留学生に提供する等の危機管理も行っている。

○ テレビ会議システムを活用した遠隔講義の実施

平成26年度よりアセアンセンターから本学・生田キャンパスの学生に向け、単位付与を伴う遠隔授業「東南アジア理解講座」を開講。今後、シーナカリンウィロート大学人文学部や泰日工業大学の学生を対象にした、日本発の遠隔授業を実施予定。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 専用ホームページの開設

平成25年4月、FacebookなどSNSとの連携機能を備えた専用ホームページを開設し、本構想の内容や学生交流プログラムの様子を随時発信する体制を構築。今後、英語やタイ語など複数言語化を検討中。

○ タイ語版大学紹介パンフレット作成

既存の日本語及び英語版に加え、本構想の拠点であるアセアンセンターが所在するタイの学生を対象に、タイ語版の大学案内を作成し、日本留学フェア等で積極的に配布。



〈専用HPを開設〉

【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
50名	17名	50名	10名	75名	139名	75名	86名